富山大学　学報

第276号

目　次

関係法令……2
諸会議……2
人事異動……3
学内諸報……3
学術講演会の開催……3
昭和61年度富山共済組合支部連絡協議会ソフトボール大会……3
学内レクリエーション〈麻雀大会〉……4
〈見学小旅行(文化部会)〉
海外渡航者……5
寄稿〈中国留学雑感―北京と西安の生活から―〉……5
〈ロンドンに留学して〉……7
職員消息……9
主要行事……9
資料……13
昭和61年度学部学生数……13
昭和61年度聴講生，研究生数……14

関係法令

政　令

○道路交通法施行令の一部を改正する政令（329）　10・14

（注）高速自動車国道等以外の道路における座席ベルト装着義務違反等の違反行為等に係る免許の拒否，保留等の行政処分の基準に関する規定の整備及び反則金の限度額の引上げ等に伴い，反則行為に係る反則金についての規定等の整備がなされた。

省　令

○児童手当法に基づく拠出金等の納付手続の特例に関する省令の一部を改正する省令（大蔵53）　10・1

○郵便規則の一部を改正する省令（郵政59）　10・29

（注）超特急郵便の取扱いをする地域が関西地域で大幅に拡大された。

規　則

○人事院規則9－6（俸給の調整額）の一部を改正する規則（人事院9－6－4）　10・1

○人事院規則9－17（俸給の特別調整額）の一部を改正する規則（人事院9－17－9）　10・1

○人事院規則14－13（四週六休制の試行のための職員の職務に専念する義務の免除）の制定　10・21

（注）国家公務員法に基づき，四週六休制の試行のための職員の職務に専念する義務の免除に関し，所要事項が定められた。

○日本学術会議・会則の一部を改正する規則（日本学術会議2）　10・27

○学術研究団体の登録に関する規則等の一部を改正する規則（日本学術会議3）　10・27

告　示

○在外教育施設として指定する件（文部142）　10・24

諸会議

昭和61年度第7回入学試験管理委員会（10月7日）

（審議事項）

(1)昭和62年度富山大学入学者選抜試験の実施について

(2)昭和62年度富山大学学生募集要項(案)について

(3)昭和62年度入学試験業務における電算処理について

昭和61年度第7回評議会（10月17日）

（審議事項）

(1)昭和62年度富山大学学生募集要項について

(2)昭和61年9月卒業者の認定について（経済学部）

(3)転学部について

昭和61年度第5回学園ニュース編集委員会（10月20日）

（協議事項）

(1)第54号学園ニュースの発行について

第9回学長選考基準検討委員会（10月24日）

（議　題）

(1)学長選考基準について

昭和61年度第5回事務協議会（10月24日）

（議　題）

(1)当面の諸問題について

人　事　異　動

異動区分	発令年月日	氏　　名	異動前の所属官職	異　動　内　容	任命権者
採　　用	61. 10. 24	塩　谷　純　子		技術補佐員(人文学部・理学部)	富山大学長
退　　職	〃	〃	事務補佐員(人文学部・理学部)	昭和61年10月23日限り退職した	〃
	61. 11. 1	永　井　正　夫	臨時用務員(教育学部作業員)	昭和61年10月31日限り退職した	〃

学　内　諸　報

学術講演会の開催

去る，10月3日附属図書館において，日本における核融合研究の推進責任者として重責を担っておられる名古屋大学プラズマ研究所所長内田岱二郎教授に「up to date の核融合研究の動向について」と題して講演をして頂きましたので，ここにその要旨を紹介します。

「要　　旨」

核融合研究の目的は，新エネルギー開発であり，基礎研究とハイテクノロジーの両面にわたるという特徴を持っている。研究の進展に伴い，現代物理学の重要なテーマの一つである「高温プラズマ集団」において新たな現象が発見・実証されると共に，新技術の急速な展開を遂げている。

プラズマ閉じ込め時間，温度，規模を例に取ってみても，10年で千倍，20年で百万倍の進歩が見られる。なお，核融合発電炉を山の頂上に例えるなら，現時点は核融合反応のエネルギーを取り出し，利用し得る事を実証する段階であり，ほぼ3合目あたりと言えよう。

現在，世界には4台の大型トカマク（磁場閉じ込め型の一種）装置が稼働している・・〔ＴＦＴＲ(米国)，ＪＴ－60(日本)，ＪＥＴ(欧州)，Ｔ－15(ソ連)〕。これらの装置は，それぞれ特徴的な炉形式をとっているが，何れも上記実証を目指している。このように，日本は世界の核融合研究の推進にあたり，積極的な役割を果たしている。また，相互裨益，重複回避及び早期実現の立場から，日米に加え，日欧，日ソ間の国際交流が進められている。

米国では，本年3月の時点でトカマク型核融合炉を目指す方針が決定されたが，日本では日本原子力研究所においてトカマク型を，そして大学においてはトカマク方式の改良を含む代替方式の研究を推進して行くことになっている。今後の核融合研究の5合目にはプラズマ燃焼の持続性（ignition）検証，7合目にはトリチウム増殖という難題が控えている。後者につながるトリチウム理工学は重要な位置を占めており，地に根をおろした研究とならねばならない。

（文責　トリチウム）

昭和61年度富山共済組合支部連絡協議会ソフトボール大会

昭和61年度富山共済組合支部連絡協議会主催のソフトボール大会が，去る10月15日(水)秋晴れの下，県立岩瀬スポーツ公園で行われました。

富山大学チームは，1回戦富山市町村チームと対戦し，11対0で圧勝。2回戦は富山工専チームでしたが，これも1回戦に続き15対2で準決勝へと勝ち進みました。

準決勝は富山医薬大チームと対戦。立ちあがり3点

を取られ不安が顔をのぞかせましたが，2回以降は富大チームが主導権を握り，試合が終ってみれば5対4と逆転し，決勝へと勝ち進みました。

決勝は昨年の覇者を敗り，勝ちあがってきた公立学校チームと対戦。富大チームは，対戦相手のピッチャーの速球におされ，なかなかヒットが打てず，7対1で惜敗し準優勝に終りました。

秋の1日，同じ富山県に働く公務員仲間との親睦がはかられたものと思います。

なお，成績等詳細は次の通りです。

(1) 日　　時　昭和61年10月15日(水)
(2) 会　　場　県立岩瀬スポーツ公園
(3) 参 加 数　14支部
　　優　勝：公立学校
　　準優勝：富山大学

学内レクリエーション

〈麻雀大会〉

本学レクリエーション委員会娯楽部会麻雀班主催による昭和61年度学内麻雀大会が3月1日(土)富山大学職員会館において，13チーム52名の参加により実施されました。

なお，成績は次のとおりです。

団体戦
優　勝　附属図書館
　　高木，秋元，東，庄司
準優勝　学生部B
　　森，奥村，土肥，堀
三　位　施設課
　　高，富田，村中，福山

個人戦
優　勝　学生部
　　土肥　隆三
準優勝　庶務部
　　西村　清
三　位　経済学部
　　宮原　進
名人賞　附属図書館
　　庄司　正文
ＢＢ賞　教育学部
　　高邑　英市

見学小旅行（文化部会）

◎称名滝と紅葉狩り

実施月日　11月1日(土)
見 学 先　中新川郡立山町
　　・称名滝
　　・国立立山少年自然の家

うららかな秋晴れの11月1日土曜日午後，文化部会は恒例の半日旅行を催した。

今年は，富山県が誇る落差350メートルの称名滝の景観と，その付近一帯の紅葉を探勝し，さらに，国立立山少年自然の家を訪れ，施設の見学並びに周辺の紅葉の素晴らしさに心を打たれ，参加者43名は日足の短くなった秋の午後を楽しんだ。

なお，当初予定していた風土記の丘資料館の見学は割愛し，今後の計画を待つこととした。

◎　退庁，退室の際には，戸締りの徹底・電気，ガスの消し忘れ，タバコの吸殻の後始末に十分注意し，盗難の防止・火災の予防に心がけましょう!!

◎　電気，ガス，水の省エネ・省資源に協力しましょう!!

海外渡航者

渡航の種類	所属	職	氏名	渡航先国	目的	期間
外国出張	人文学部	教授	小谷　仲男	パキスタン インド	ガンダーラ仏教遺跡の総合調査	61. 10. 4 〜 61. 12. 22
	理学部	助手	笹山　雄一	タイ	日本の暖海性動物の東南アジア海域からの分化・拡散に関する研究	61. 10. 7 〜 61. 12. 11
	教養部	助教授	竹内　章	中国	地震予知に関する日中共同観測研究	61. 10. 13 〜 61. 11. 9
	教育学部	教頭	稲垣　実	連合王国，ベルギー，スペイン，ポルトガル，アメリカ合衆国	アメリカ合衆国及びヨーロッパ諸国の教育・文化・社会事情の視察	61. 10. 17 〜 61. 11. 10
	理学部	助教授	道端　斉	アメリカ合衆国	ホヤ類におけるバナジウムとツニクロームの役割に関する研究	61. 10. 24 〜 62. 8. 31
	トリチウム科学センター	教授	渡辺　国昭	アメリカ合衆国	「核融合装置における真空技術」日米ワークショップ	61. 10. 26 〜 61. 11. 3
海外研修旅行	教育学部	教授	神谷　重徳	連合王国 スペイン 西ドイツ シンガポール	障害児の療育に関する調査研究	61. 10. 30 〜 62. 2. 3

寄稿
〈中国留学雑感—北京と西安の生活から—〉

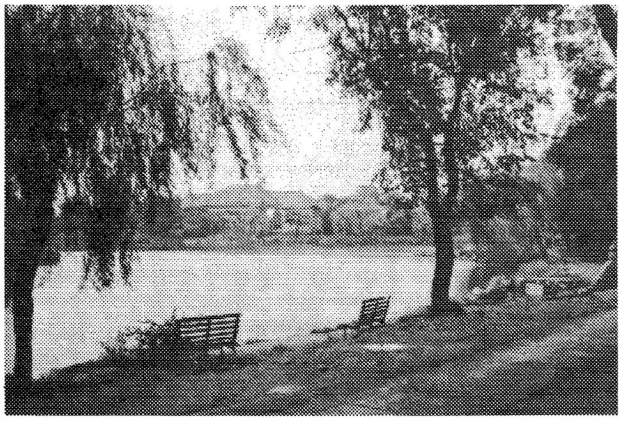
教養部助教授　気賀沢　保　規

日本学術振興会は，中国政府との協定に基づいて，毎年，中国社会科学院と国家教育委員会（もとの教育部，文部省に相当）に各1名を長期研究者として派遣する。このうちの国家教育委員会，直接にはその下の各大学の受入れとして実現したのが，私の今回の留学であった。

昨年9月16日に日本を離れて最初に赴いたのは，北京大学の歴史系（学部）である。ここでは，前学期の終る1月末までの4か月余と，1年間の成果報告をかねた帰国前の1か月，合計5か月あまりを過し，残る半年は西安にある陝西師範大学唐史研究所のお世話になった。

北京大学，おそらく誰もが名を耳にしたことがあるだろうこの大学は，北京の西北郊にある。市の中心部へバスを乗り継いで1時間以上かかる交通の不便さを除けば，環境は抜群で，清の乾隆帝がカスティリィオーネに設計させた円明園址や，西太后の命による頤和園は目と鼻の先にあり，理工系の名門，清華大学や中国科学院とも境を接する。大学の敷地そのものも，かつての清朝の庭園の一部で，校内には古い多層の磚塔など建造物，周囲を散策するのに30分はかかる未名湖という広く美しい湖があって，楽しませてくれる。

ここでの私の日常は，週2・3回の大学院生向けの講義を聴講するほかは，図書館内の歴史研究室で，院生諸君と机をならべ資料を調べることであった。こうしたなかで，若い研究者たちとも知りあい，時に宿舎



北京大学　未名湖遠景

を訪ねあったり，研究会へ誘われたりもした。かれらは外国の動向にも関心をもち始めており，私も求められて，日本における中国史研究の現状について話をさせられた。

だが北京大学滞在で，何といっても貴重であったのは，当代を代表する著名な研究者の謦咳に接し，講筵に連なることができたことである。先生方は，私が若輩であったにもかかわらず，中国政府の公費で当歴史系に受入れた第一号であるとして，種々気遣ってくれる一方，個人的に，学問研究をめぐって多くの教示を与えてくれた。

なかでも，私と年齢が近く，しかも精力的な仕事によって将来を嘱望されている劉俊文副教授との交友は，決して忘れえぬ思い出である。われわれは，ほぼ毎週一回は会い，会えば時のたつのも忘れて話しこむ，いわば二人だけの研究会をつづけたが，そこで示される明晰な回答，それを裏づける学識の深さに，私は驚ろきと尊敬の念を禁じえなかった。このような優れた研究者と真に心を許しあえる友人になれたこと，その一つだけでもこの大学で勉強した意味があったと，私は考えている。

こうした北京での生活にたいし，西安でのそれは趣きを異にしていた。私の所属した陝西師範大学は市の南郊にあり，宿舎の窓から，近くに有名な大雁塔，遠くには終南山の連なりが望まれた。大学は，その名の示すとおり教員養成を主たる目的とする。それも，陝西省を中心とする中国西北地区の中学高校の幹部教員をであり，この面での重点校の一つであった。学内には，通常の課程のほかに，夜間部や通信制，短期速修班があって，各機関の幹部といった人たちが学んでいるという。したがって研究という点では，北京大学より一段下がるのはやむをえないところで，私の関心も，当初から外に向けられていた。この地が，専攻する隋唐時代の都，長安の所在地であり，関係する遺址や文物をみ，古都の景観を身をもって知り，同時に当該時代の専門家と広く交流したい，と考えたからである。

私は知りあいの方から借りた自転車であちこち動きまわったが，なかでもよく通った場所の一つに，西安碑林の名で有名な陝西省博物館がある。まさに碑の林という形容がぴったりするその間を一人歩きまわるとき，歴史の世界にわけ入っていく思いに名状しがたい興奮を覚えたものである。

またべつに，市内にある西北大学にもよく足をのばしたが，それは林剣鳴という秦漢史の権威を訪ねるためであった。先生は昨年，関西大学に招かれて数か月日本に滞在したことがあり，中国人学者のなかではめずらしい日本通であった。この先生から私は，しばしば食事の招待にあずかる一方，考古学方面の研究者を紹介いただいた。西北地区で考古学の講座をもつのは西北大学だけであり，ここで学んだ人たちが博物館や考古研究所などで重要なポストを占めていたからである。中国で人と会う場合，仲介に立つ方あるいは紹介状があるかないかで事情が大きく異なる。その意味からも，林先生のご配慮は，はかり知れない重みをもつものであった。

西安は観光で訪れる外人客は多いが，地方都市であるため，私のような身分で長期滞留するものは少ない。それ故よく学内外のまったく畑違いの方の訪問をうけ，日本の学界や社会事情について教えてもらいと尋ねられ，面くらったりもした。日本への関心はここでも高いものがあった。

地元新聞社の記者の来訪をうけたこともある。西安の印象について語ってくれという。ためらったあげく，やや悪口めいたことになるがと断わった上で，自分の感じたところを述べた。じつはいま西安は治安が非常に悪い。バスに乗ればスリが多く，泥棒やかっぱらいは日常茶飯事とみうけられる。夜の盛り場は失業中とおぼしき若者たちのたまり場で，半ば無法化し，女性の一人歩きはとくに危険であった。一方，商店やホテルのサービスはお世辞にもよいとはいえない。私がその記者に話したのは，こうした事態が放置されていることは外人からみて驚ろきで，目玉とする観光政策にとって決定的なイメージダウンである，といった内容である。かれは確かに指摘のとおりだ，何とか記事にまとめたいといって帰っていったが，結局それは載らなかった。問題の根があまりにも深いことのほか，外人からの指摘でかれらのプライドが許さない，という

理由もあったようである。

ともあれ西安の生活は，毎日が忙しく，大変ではあったが楽しかった。と同時に，表向きの顔をした北京とは違う，素顔の世界にふれることができたことは，今後中国およびその歴史像を理解する上で，かけがえのない経験であったと思っている。

ところで，今日の中国社会を大きく変えようとする力は，大学にもおよんでいた。それは具体的に，世代交代と業績主義の採用となって現われている。これまで中国の大学は，停年制がなく，そのため年齢構成にアンバランスが生じ，若手の有望なものが低く抑えられる状態がつづいてきた。そこに日本などを参考にして停年制をもちこみ，人事の硬直化を打破し，若返らせ，社会の変化に対応させようというのである。同時に各人の業績を重視し，それにみあうポストにつけようとする。

北京大学学生掲示板

（昨年の「九・一八」反日行動のさいに張り出された壁新聞とこれを真剣にみる人垣風景）

北京大学に例をとれば，今年から70歳停年制を実施し，来年はさらに65歳に下げ，ゆくゆくは60歳にまでもっていきたいという。もちろん老教授でも，なお一線で仕事をつづけている方には，大学院の担当などで残る特例は設けられている。また，毎年の業績審査も厳しくなり，優秀な研究には賞まで出す。前述の劉氏も学長賞をもらい，副賞が二百元（かれらの給料の二か月分）であったと笑っていた。他の大学でもおおむねこれに倣い，あるところでは，三年間学界の評価の対称になる成果を出せない場合には，職場を替ってもらうこともあると聞いた。

大学院生にたいしても厳しさが求められている。多くは三年間の修士課程を終えて研究機関に配属されるが，そのさい当然論文を提出し口答試問が課せられる。この卒業論文の審査にあたって，主査は必ず学外のその分野の専門家でなければならないと決められ，指導教授が即主査の関係から生じがちな恩情主義の排除がはかられる。加えて，口答試問は公開制で，学内外の誰でも出席してかまわない。勢いかれらは寝食を忘れて猛勉強をしなければならないのである。

中国の大学にはなお解決を迫られている問題の多いのも事実である。だがそうしたハンディを抱えながら，改革は本格化し，人びとはいよいよ真剣に仕事を始め出している。そうした動きを前にして，私も安閑としているわけにはいかない，と決意を新たにした次第である。

▶　筆者は，日本学術振興会の特定国派遣研究者として「隋唐時代における国家と社会に関する研究」を目的として，昭和60年9月16日から昭和61年8月24日まで中華人民共和国に滞在され帰国されましたので，特に原稿を依頼したものです。

〈ロンドンに留学して〉

経済学部教授　武　　暢　夫

本年3月19日から約半年間，ロンドンに留学する機会を与えられた。留学の主な目的は今やっている地方史的研究に関連する文献・史料をできるかぎり閲覧してこようということであった。まずロンドン大学歴史研究所で図書館等を利用する許可をえ，そこからの紹介でロンドン大学図書館と大英図書館を利用することができた。

歴史研究所はロンドン大学を構成する多くのカレッジと研究所の一つであり，セネート・ハウス（要するに，大学の本部）の一隅をしめている。セネート・ハウスの所在地はロンドン市のほぼ中央部に当るといってよい。この研究所はロンドン大学における歴史研究の中心といった位置にあり，外部からの訪問研究者の数も多く，外国人研究者の受入れも手なれたものである。

最初に事務室で簡単な手続をすますと，司書が館内を一通り案内してくれる。司書といっても，すべて学位をもった一流の研究者であり，研究上の相談をも含めた高度な役割を果している。今の日本の大学にこんなことを望んでも無理だろうが，若干うらやましい話ではある。研究所の図書館では殆んどもっぱら「英国地方史」の閲覧室を利用していた。ここは地方史関係の基本的な史料集，研究書，雑誌類を収めた小じんまりしたところであり，他の閲覧室にくらべて利用者が少ないようだった。9つの机がふさがっていることは殆んどなく，静かすぎるほどの環境で，富山大学の喧噪を思うと，別世界の感があった。

ロンドン大学図書館はセネート・ハウスの5階から上の部分をしめ，豊富な蔵書量を誇っている。ちなみに，この下の階に広い職員食堂がある。利用者が多くて，いつも長蛇の列をつくっているが，質の割には値段が安く，1～2ポンドでいちおうの食事がとれる。このことはロンドンの日本人の若者たちの一部でも評判になっていて，最近は観光客までこっそり入ってくるという話である。研究所図書館はすべて開架式で，図書の借り出しは認められないが，ここは一度に6冊まで借り出せるので，ときどき利用していた。このように，良好な研究環境に恵まれたことには感謝しているが，研究分野がやや特殊であったせいか，閲覧を期待していた文献のなかにはこれらの図書館に所蔵されていないものがあった。そこで，歴史も古く，さらに蔵書量の多い大英図書館に望みをかけることにした。そして，当初は折角の機会に少しのぞいてみようというぐらいの気持しかなかったのが，結局，滞在期間の大半をこの図書館で過ごすことになった。

セネート・ハウスの少し南の方に有名な大英博物館があり，大英図書館は同じ建物の一郭を成している。この図書館はその起源が1753年の大英博物館の設立にさかのぼるという長い歴史をもち，特に，大きな円形ドーム状の広いリーディング・ルームを持つ点で余りにも有名なところである。第二次大戦中，この図書館もドイツ空軍の爆撃によって建物の一部を破壊され，かなりの蔵書が損なわれた。それらの図書はもう見ることができないが，図書カードにはデストロイド・ブックと記録されている。リーディング・ルームは戦禍を免がれ，1857年の建築以来ほぼ原形を保ってきたが，館員の話では近くの場所に全館を新築，移転する計画があり，その時期はほぼ10年後ということである。し

大英博物館

かし，長い歴史をもつリーディング・ルームの移転を惜しみ，保存を望む声も多いという。私も大英図書館では大ていリーディング・ルームを利用していた。そのときは閲覧者たちの手もとに請求された本を届けにくる古い手押車のガタゴトいう音を耳ざわりに思ったこともあるが，それも今では懐しく思い出されてくる。現在の図書館の残っているうちに再訪したいものだが，多分できないだろう。

ところで，ロンドンでの住居は知人に依頼して，市の西北部の住宅街に適当なフラット（アパート）を見つけてもらった。図書館へは地下鉄で通ったが，片道の所要時間は全部で40分ほどである。ほとんど毎日，フラットと図書館の間を往復し，ときどき古書を漁るといった単純な生活を送っていたから，見聞の範囲はいたって狭い。ところが，ともかくもロンドンに行ってきたというので，ロンドンの現状はどうかなどという質問を受けて，返答に困ることがある。実際，ロンドンのような巨大都市の様相を簡単に説明するのは至難の業であろう。少し前にも，ロンドンの実態と評価をめぐって2人の才女が対立していたようだが，日本ではロンドンの本格的な研究はこれからというところである。うかつに物はいえない。

しかし，狭い見聞の範囲でも，いろいろ考えさせられるところがあった。例えば，ちょっと町を歩いただけでも，現在のロンドンが多民族社会であることが実感される。実際，人種問題は次第に深刻になっており，昨年はロンドンで非白人系住民の暴動が発生したが，今年の5月には北部のブラッドフォード市でインド系のタクシー運転手たちが白人のグループに襲撃されるという事件があった。今のところはまだ単なる感想でしかないが，このような人種問題の発生はもちろん，英国の政府と社会の対応には歴史研究の立場からも重要な問題がひそんでいるようである。私自身にはでき

ないだろうから，誰か人種問題について本格的な分析をやってくれないものかと思っている。これは日本にとっても人事でない問題であろう。このほか，狭い行動範囲の中で日常的に見うけられる現象にもイギリス社会と日本社会の歴史的特質の解明にも通じるような問題があるような気がした。いちいち具体的に説明する余裕はないが，今後の研究にどう反映させていこうかと思案しているところである。

ともあれ，今回のロンドン滞在は単に当面の研究のための資料をえたというだけでなく，いろいろな問題に気がついたという点でも有意義であった。このような機会を与えられたことに感謝している。

▶　筆者は，文部省短期在外研究員として，昭和61年3月18日から昭和61年5月15日まで2か月間「近代初期におけるイギリス農業発展の比較史的研究」のため，連合王国へ外国出張されました。引き続いて，昭和61年9月7日まで，同国に海外研修旅行で約4か月間滞在され帰国されましたので，特に原稿を依頼したものです。

職　員　消　息

《住所変更》

教育学部

講　　師　松　本　　清

文部事務官　中三川　敏　之

経済学部

助　教　授　武　脇　　誠

助　教　授　芳　賀　健　一

理 学 部

助　教　授　氏　家　　治

教 養 部

助　教　授　江　上　繁　樹

附属図書館

事務補佐員　本　田　善　彦

主　要　行　事

本　　部

10月1日　物品の定期検査
（於：人文学部，理学部，教養部）

1～3日　昭和61年度体育系サークルリーダー研修会
（於：山野スポーツセンター）

2日　物品の定期検査
（於：教育学部，附属中学校）

2～3日　第22回41大学庶務部長会議（於：一橋大学）

3日　物品の定期検査
（於：経済学部，経営短期大学部）

6日　第1回総合大学院検討委員会自然科学部会
物品の定期検査
（於：本部,保健管理センター,トリチウム科学センター，附属養護学校，附属図書館）
7日　第7回入学試験管理委員会
第10回全国大学保健管理協会北陸地区保健婦看護婦班研究会(於：富山医科薬科大学)
8日　物品の定期検査（於：工学部）
9日　物品の定期検査
（於：附属小学校，工学部）
昭和61年度文部省共済組合地区別事務担当者打合せ（於：ＫＫＲ札幌）
13日　循環器検診
昭和60年度学生健康保険組合会計監査
14～15日　第44回東海・北陸地区国立大学等施設部課長会議（於：岐阜大学）
14～17日　第24回全国厚生補導研究集会（於：新潟大学）
16日　第2回総合大学院検討委員会自然科学部会
昭和61年度学生健康保険組合理事会
17日　第7回評議会
20～29日　北陸地区国立学校事務電算化担当職員研修会（於：金沢大学）
第5回学園ニュース編集委員会
21～22日　第24回全国大学保健管理研究集会
（於：千葉文化会館）
23日　昭和61年度（第14回）国立大学保健管理センター所長会議（於：東京ホテル聚楽）
23～24日　第44回東海・北陸地区国立大学長会議
（於：金沢大学）
24日　第9回学長選考基準検討委員会
部課長会議
第5回事務協議会
27～29日　共済組合年次監査
27～31日　厚生補導事務研修会（於：八王子研修所）
28～29日　昭和61年度東海・北陸・近畿・静地区国立学校広報・文書研究協議会
（於：共済会館「びわこ」）
30～31日　第70回東海・北陸地区国立学校等会計部課長会議（於：岡崎国立共同研究機構）
31日　第13回北陸地区国立学校施設担当者連絡協議会（於：富山医科薬科大学）

人文学部

10月1日　物品の定期検査
8日　学部将来計画委員会
9日　循環器検診（於：保健管理センター）
教務委員会
教授会
13日　専門教育課程移行者オリエンテーション
15～17日　16大学人文系学部長会議及び同事務長会議
（於：信州大学人文学部）
17日　内科検診（於：保健管理センター）
22日　教授会
人事教授会
23日　紀要委員会
24日　コース対抗ソフトボール大会
内科検診（於：保健管理センター）
28日　学部補導委員会
29日　教授会
人事教授会
研究科委員会
30日　事務連絡会

教育学部

10月1日　学部将来計画委員会
2日　附属学校運営委員会
2,6,9日　物品の定期検査
3日　循環器検診
8～9日　日本教育大学協会北陸地区国語科，書道科合同研究協議会（於：上越教育大学）
13日　学部補導委員会
学部教務・補導合同委員会
学部教務委員会
教授会
人事教授会
15日　専門教育課程移行者オリエンテーション
16～17日　昭和61年度秋季全国国立大学教育学部長会議（於：新潟大学）
日本教育大学協会北陸地区音楽部門研究協議会（於：福井大学）
17～18日　日本教育大学協会北陸地区数学部門研究協議会（於：金沢大学）

18日　教育実習終了
20日　後学期授業開始
22日　紀要編集委員会
　　人事教授会
23～24日　昭和61年度秋季北陸地区教員養成学部事務長協議会（於：富山大学）
24～25日　日本教育大学協会北陸地区理科研究協議会（於：福井大学）
　　日本教育大学協会北陸地区外国語部門研究協議会（於：新潟大学）
29日　学部補導委員会
30～31日　日本教育大学協会北陸地区学長・副学長・学部長・学部教員合同会議(於：金沢大学)
　　日本教育大学協会北陸地区教育実践研究指導研究協議会（於：信州大学）
　　日本教育大学協会北陸地区社会科部門研究協議会（於：信州大学）
31日～11月1日　日本教育大学協会北陸地区保健・保健体育科研究協議会（於：福井大学）

経済学部

10月3日　物品の定期検査
　　昭和61年度転学部出願者の選考委員会
6日　各種委員選考委員会
9日　人事教授会
　　拡大教務委員会
　　学部教務委員会
　　教授会
　　学部教務委員会
　　学部補導委員会
13日　循環器検診
14日　専門教育課程移行者オリエンテーション
15日　後学期授業開始
　　学部将来構想検討委員会
22日　学部教務委員会
　　人事教授会
　　教授会
　　人事教授会
　　学部図書委員会
29日　日本海経済研究所運営委員会
　　財務委員会
　　学部施設整備委員会
　　コンピューター管理運営委員会
　　論集委員会
　　学部職業補導委員会
　　学部教務委員会（持ち回り）
30日　学部補導委員会
31日　国立11大学経済・経営学部教官懇談会（於：横浜国立大学）

理学部

10月1日　物品の定期検査
7日　総合大学院検討委員会
9日　循環器検診（於：保健管理センター）
　　教授会
　　研究科委員会
　　人事教授会
14日　専門教育課程移行者オリエンテーション
15日　後学期授業開始
17日　総合大学院検討委員会
　　内科検診（於：保健管理センター）
18日　教職科目に関するオリエンテーション
23～24日　国立22大学理学部長会議
　　国立大学理学部長会議（於：学士会館）
24日　内科検診（於：保健管理センター）
29日　補導委員会（持ち回り）
30日　事務連絡会
31日　学科主任会議

工学部

10月1日　教員資格基準検討委員会
2～3日　第10回国立大学46工学系学部長会議総会（於：横浜市）
　　第39回国立大学工学系事務長会議（於：長野市）
7日　循環器検診（心電図，血圧）
8～9日　物品の定期検査
14日　教員資格基準検討委員会
15日　教務委員会
　　教授会
　　研究科委員会
16日　専門教育課程移行オリエンテーション

17日　後学期授業開始
21～22日　第19回北陸信越地区国立大学工学部長会議
（於：信州大学繊維学部）
北陸信越大学工業教育協会第85回理事会
（於：信州大学繊維学部）
27日　工場運営委員会
29日　学部補導委員会
学部改革検討委員会
健康診断（内科診察，尿検査，血圧）

教　養　部

10月1日　内地在外研究員に関する委員会
物品の定期検査
2日　施設整備委員会
9日　教授会
15日　後学期授業開始
18日　親和会レクリエーション(於：宇奈月温泉)
28～29日　12大学教養部長・事務長連絡会議
（於：静岡大学）
29日　紀要委員会

附属図書館

10月1日
～14日　図書点検（教養部）
6日　物品の定期検査
9日　循環器検診
18日　情報処理センター及び富士通ＳＥとの電算化打合せ会
24日　電算化ワーキンググループ打合せ会
27日　係長事務打合せ

トリチウム科学センター

10月3日　学術講演会（於：附属図書館）
6日　物品の定期検査
8日　科学技術庁定期検査（於：トリチウム科学センター）

保健管理センター

10月3日　循環器検診（職員，35才以上）
職員健康診断（本部）
6日　物品の定期検査
7日　循環器検診（職員，35才以上）
第10回全国大学保健管理協会北陸地区保健婦看護婦班研究会(於：富山医科薬科大学)
8日　臨時健康診断（ラグビー部）
9日　循環器検診（職員，35才以上）
13日　循環器検診（職員，35才以上）
17日　職員健康診断（教育学部）
21～22日　第24回全国大学保健管理センター所長会議
（於：東京お茶の水ホテル聚楽）
24日　職員健康診断（経済学部，附属図書館）
29日　職員健康診断（人文・理学部，教養部）

経営短期大学部

10月1日　後学期授業開始
2～3日　国立短期大学主事・事務長会議
（於：新潟市）
3日　物品の定期検査
6日　教授会（持ち回り）
14日　学部教務委員会
16日　教授会
23日　学生定期健康診断
24日　職員定期健康診断

資　　料

昭和61年度　学　部　学　生　数
(61．10．1現在)

学部	学科(課程)		入学定員 60入	入学定員 61入	総定員	一般教育課程 1年次 男	1年次 女	1年次 計	2年次 男	2年次 女	2年次 計	計	専門教育課程 2年次 男	2年次 女	2年次 計	3年次 男	3年次 女	3年次 計	4年次 男	4年次 女	4年次 計	計	合計 男	合計 女	合計 計
人文学部	人文学科		90	95	365	24	71	95	9	4	13	108	24	64	88	39	48	87	43	52	95	270	139	239	378
	語学文学科		80	95	335	15	79	94	2	3	5	99	14	64	78	15	71	86	27	79	106	270	73	296	369
	計		170	190	700	39	150	189	11	7	18	207	38	128	166	54	119	173	70	131	201	540	212	535	747
教育学部	小学校教員養成課程		140	140	560	35	104	139	1	0	1	140	34	105	139	25	118	143	36	113	149	431	131	440	571
	中学校教員養成課程		50	50	200	21	27	48	4	1	5	53	21	29	50	16	26	42	21	30	51	143	83	113	196
	養護学校教員養成課程		20	20	80	2	19	21	0	0	0	21	4	16	20	1	19	20	6	14	20	60	13	68	81
	幼稚園教員養成課程		30	30	120	1	29	30	0	0	0	30	0	27	27	0	28	28	0	31	31	86	1	115	116
	計		240	240	960	59	179	238	5	1	6	244	59	177	236	42	191	233	63	188	251	719	228	736	964
経済学部	昼間主	経済学科	120	144	504	124	19	143	32	1	33	176	90	11	101	106	12	118	125	11	136	355	477	54	531
		経営学科	120	124	484	91	32	123	46	1	47	170	73	23	96	※ 73	30	※ 103	116	31	147	※ 346	※ 399	117	※ 516
		経営法学科	60	102	282	83	19	102	22	1	23	125	40	7	47	47	7	54	54	13	67	168	246	47	293
		小計	300	370	1,270	298	70	368	100	3	103	471	203	41	244	※ 226	49	※ 275	295	55	350	※ 869	※1,122	218	※1,340
	夜間主	経済学科		20	20	15	4	19				19											15	4	19
		経営学科		20	20	12	8	20				20											12	8	20
		経営法学科		20	20	16	3	19				19											16	3	19
		小計		60	60	43	15	58				58											43	15	58
	計		300	430	1,330	341	85	426				529	203	41	244	※ 226	49	※ 275	295	55	350	※ 869	※1,165	233	※1,398
理学部	数学科		40	43	163	27	16	43	14	1	15	58	28	12	40	38	13	51	24	12	36	127	131	54	185
	物理学科		40	47	167	43	4	47	16	0	16	63	36	5	41	42	3	45	36	2	38	124	173	14	187
	化学科		40	43	163	23	20	43	12	1	13	56	27	12	39	18	21	39	25	15	40	118	105	69	174
	生物学科		30	35	125	28	7	35	5	0	5	40	27	6	33	20	10	30	27	8	35	98	107	31	138
	地球化学科		30	32	122	28	4	32	12	1	13	45	25	5	30	31	0	31	29	5	34	95	125	15	140
	計		180	200	740	149	51	200	59	3	62	262	143	40	183	149	47	196	141	42	183	562	641	183	824
工学部	電気工学科		50	53	203	52	1	53	13	0	13	66	51	0	51	56	0	56	41	0	41	148	213	1	214
	工業化学科		45	48	183	44	4	48	21	0	21	69	28	6	34	48	10	58	39	4	43	135	180	24	204
	金属工学科		40	43	163	43	0	43	22	0	22	65	31	0	31	53	0	53	27	0	27	111	176	0	176
	機械工学科		50	53	203	53	0	53	15	0	15	68	56	0	56	63	0	63	55	0	55	174	242	0	242
	生産機械工学科		40	43	163	43	0	43	21	0	21	64	36	0	36	44	0	44	38	0	38	118	182	0	182
	化学工学科		40	43	163	39	4	43	19	1	20	63	34	2	36	48	1	49	29	2	31	116	169	10	179
	電子工学科		40	43	163	※ 44	0	※ 44	13	0	13	※ 57	34	0	34	44	1	45	39	2	41	120	※ 174	3	※ 177
	計		305	326	1,241	※ 318	9	※ 327	124	1	125	※ 452	270	8	278	356	12	368	268	8	276	922	※1,336	38	※1,374
合計			1,195	1,386	4,971	※ 906	474	※1,380	299	15	314	※1,694	713	394	1,107	※ 827	418	※1,245	837	424	1,261	※3,612	※3,582	1,725	※5,307

(注) ※私費外国人留学生1名を含む。

・大学院

区　分	入学定員	総定員	1年次 男	1年次 女	1年次 計	2年次 男	2年次 女	2年次 計	合計 男	合計 女	合計 計
人文科学研究科	10	20	※ 8	0	8				※ 8	0	※ 8
理学研究科	42	84	24	2	26	19	1	20	43	3	46
工学研究科	62	124	△▲51	0	51	50	2	52	△▲101	2	△▲103
計	114	228	※△▲83	2	85	69	3	72	※△▲152	5	※△▲157

（注）※は私費外国人留学生
△は中国政府派遣留学生
▲は国費外国人留学生

・専攻科

区　分	入学定員	男	女	計
文学専攻科		1		1
教育専攻科	5	1	2	3
経済学専攻科	10	1		1
計	15	3	2	5

・経営短期大学部

区　分		入学定員	総定員	1年次 男	1年次 女	1年次 計	2年次 男	2年次 女	2年次 計	3年次 男	3年次 女	3年次 計	合計 男	合計 女	合計 計
経営学科	経営管理専攻	—	120	—	—	—	32	11	43	35	14	49	67	25	92
	経営・法律専攻	—	80	—	—	—	11	7	18	25	8	33	36	15	51
計		—	200	—	—	—	43	18	61	60	22	82	103	40	143

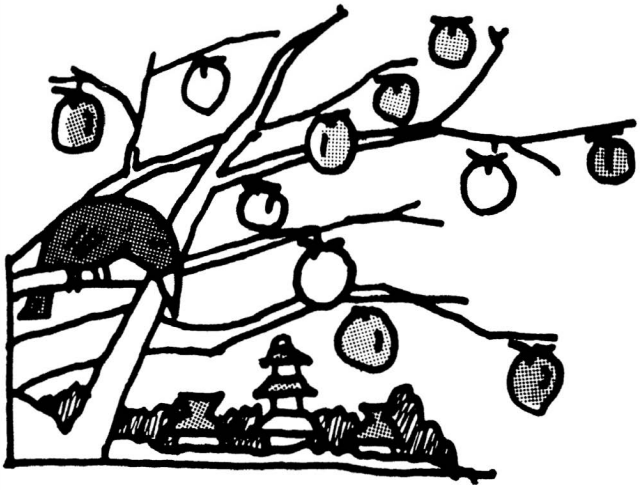
昭和61年度聴講生，研究生数

（昭和61年10月1日現在）

区　分	研究生 男	研究生 女	研究生 計	聴講生 男	聴講生 女	聴講生 計
人文学部	2	※ 3	※ 5	7	8	15
教育学部				7	3	10
経済学部		△ 2	△ 2			
理学部	4		4			
工学部	4		4	3		3
教養部						
合計	10	※△ 5	※△15	17	11	28
学部卒以上	10	※△ 5	※△15	17	8	25
上記以外					3	3
合計	10	※△ 5	※△15	17	11	28

◎　積雪・凍結時の自動車等の運転は，極力取り止めましょう!!

◎　積雪時は，構内除雪の障害とならないよう駐車に注意しましょう!!

◎　構内での自動車等の運転は，教育・研究に支障を来さないよう安全運転に努め定められた交通方法，歩行者の安全及び騒音防止に努めましょう!!

編　集　富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所　あけぼの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電　話　(24) 1755(代)